

八ヶ岳 阿弥陀岳南稜

【日時】 平成29年2月12～13日

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

2月12日 晴れ時々曇り、夕方小雪

前夜は美濃戸高原ロッジに宿泊し、御主人に南稜取り付までのコースを教えていただき、美濃戸に下山したなら舟山十字路まで送ってあげようとのありがたい言葉もいただいた。

朝、今冬一番とも言える冷え込みの中ロッジを発ち、舟山十字路に向かう。3台の車が停まっている。ゲートを超えて直進し、御小屋尾根への分岐を過ぎて沢沿いに進む。トレースを辿り、少しの急登で南稜に登り着いた。しばらく進むと旭小屋からの道が合流するのだが、そちらにはトレースは付いていなかった。急登を終え立場山を越えると青ナギで、展望が開ける。無名峰まで一登りしてP1を越え、P1とP2との鞍部にテントを設営し午後はテント内でのんびり過ごした。夕方からは小雪が舞っていた。

舟山十字路 7時10分 南稜尾根上 8時 天場 (P1、P2 コル) 11時10分

13日 快晴のち時々曇り

朝は相当な冷え込みで、ゆっくり出発する。すぐにP2で、左肩を巻いて通過するとP3が眼前に聳える。P3基部を回り込んで行くと、テントが残置されていた。遭難者のものであろう、言いようのない悲しみと残念な気持ちに心が満たされ、ご冥福をお祈りすることしかできなかった。

P3ルンゼは取り付きが凍っているが、研いできたアイゼン、ピッケル、パイルが良く刺さる。しかし氷が硬いのか、割れやすかったのがこれには注意した。部分的に凍った狭いルンゼ内を約35mで残置ボルトに達し、ここでピッチを切る。寒くて足指先の感覚が無く、ビレー中足指をずっと動かしていた。Tさんも同様であったらしい。ここから、少し左手に登って行く。約25mで残置ボルトがあり、ここで切る。3ピッチ目は傾斜が少し落ち、左寄りに雪の載った凍った草付きを登って約35mで稜線上に出た。P3上で小休止した後、コンテでP4基部まで移動する。P4のトラバースはスタカットとし、岩と雪のミックスした約25mのトラバースで、一部足場が狭いが落ちて行動すれば問題はない。続いて階段状の雪の付着した岩稜を30mほど登って雪の堆積したコルで切り、更に右手の雪壁を登って約40mで頂上下に達した。

頂上は360度の展望で、北アルプスも見え、文三郎尾根には登山者の姿が見られた。当初は御小屋尾根下山を考えていたが、トレースの保証されている行者小屋から南沢のコースに変更する。急斜面の下りが続き、緊張する。最後の長い斜面を慎重に下り、コルに着いてやっと緊張から解放された。トラバースルートにトレースがあり、降雪後数日を経ていること、低温であること、雪崩跡が無いこと等より、同ルートより行者小屋に下山した。美濃戸口からは、美濃戸高原ロッジの御主人に舟山十字路まで送っていただいた。

テント場 6時50分 P3基部ルンゼ入り口 7時50分 P3上 8時40～50分 阿弥陀岳
頂上 10時～10時10分 コル 10時40分～11時5分 行者小屋 11時35分～11時50分
美濃戸口 13時45分



青ナギ



P3を仰ぐ



P3 ルンゼ 1 ピッチ目



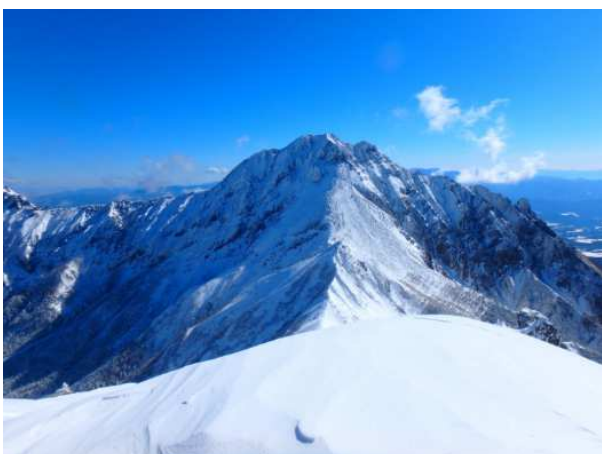
P3 より P4 と阿弥陀岳頂上



P4 トラバース上部



頂上直下の登り



頂上より赤岳



行者小屋より阿弥陀岳